



学校だより

5月号



令和4年4月28日
横浜市立能見台南小学校

← 学校ホームページ
QRコード

運動会で育つ力

校長 榊原 一紀

温かい日差しの中、校庭では南小オリンピックにむけて徒競走のタイムをとったり、理科の学習で春の生き物を観察したりしています。入学、進級して約1カ月経ち、新しいクラスに少しずつ慣れてきているように感じます。5月の大型連休が終わると、28日に予定されている南小オリンピック（運動会）に向けた準備が本格的に始まります。

コロナ前には、運動会を行うことで横の関係が育つと、企業向けの運動会を計画する会社があるニュースを聞くこともありました。学校で行う運動会にもたくさんの意義があると思っています。

高学年が運営にかかわっていくことを通して、自覚や責任感が育っていきます。また、リレーの選手がバトンパスの仕方を下の学年の子に教えたり、応援団の子が応援の仕方を全校に教えたりすることを通して、教えることの楽しさや協力することの大切さを感じることでしょう。また、団体競技や徒競走で頑張っている子を応援することで一体感を感じ、応援することの楽しさを学ぶことでしょう。運動会の練習、本番を通して、子どもたちが今後成長していく上での大切な力が育っていきます。

その中でも勝負が決まった時が一番大切な時だと私は思っています。勝ったチームには「勝つためには、負ける人が必要で、手加減をしてもらって勝ってもうれしくないでしょう。うれしいと思うのは、力いっぱい戦ってくれた相手がいるからだね。」と話します。負けたチームには「みんなは力いっぱい戦った。たまたま負けてしまった。でも、次は勝てるかもしれない。頑張ったことに胸を張ってほしい」と話します。勝ったチームには相手を思いやること、負けたチームには負けを受け入れくじけないこと、どちらも育てたい力です。チームの勝敗だけでなく、徒競走や団体競技での勝負が決まったときも同じだと感じています。

「ぼくは、5年間運動会で負けています。今年は応援団長になって、優勝させたいです。」昔、こんな話をする子に出会いました。現実を受け入れて、前を向いている姿に、私も含め多くの子が、心から応援したくなりました。

コロナ禍での南小オリンピックの開催となります。感染対策には、お子さんが出場している場面のみ参観するなどのゆずりあいが必要です。保護者の皆様のご理解、ご協力をお願いします。詳しくは、後日配付するお手紙でご確認ください。